下呂市炬火リレーが開催されました

7月16日から、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の機運を盛り上げようと、県内全市町村を巡る炬火リレーがはじまりました。

下呂市では、萩原町四美の皇樹の杜で独自に採火した「清流と温泉の街 下呂に集う 絆の火」と、岐阜県の炬火「清流ぎふ 絆の炎」とをひとつにして炬火リレーを行いました。

出発式で野村市長は「目前に迫ったぎふ清流国体をさらに盛り上げていただき、国体期間中は、市民の皆さまも、おもてなしの心をもって国体関係者を迎えて下さい。」とのメッセージを伝えました。

7月23日、金山振興事務所前で
炬火台に合火する野村市長と二村博文さん

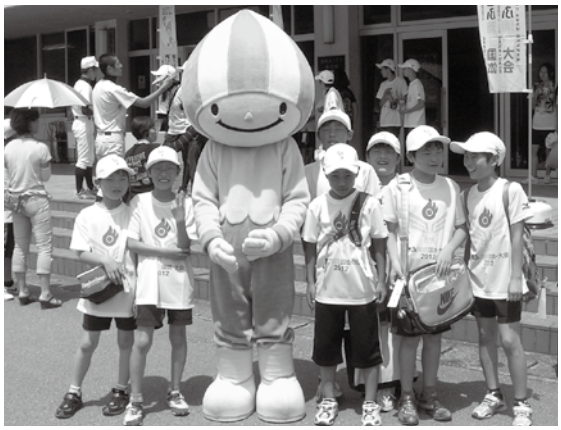
市内各地で手作りのミナモ帽子や
お面を見かけました

沿道では、炬火リレー隊を一目見ようと、多くの市民が小旗を手に応援していました。なかには、手作りのミナモ帽子やお面を持参して「がんばれー」と声援を贈る姿がありました。ミナモはみんなの人気者ですね。

日本一おいしい鮎を育む、清流馬瀬川沿いを駆ける炬火ランナー

市内5地域の20km20区間を、204名の市民ランナーが駆け抜けました。平日にも関わらず、リレーコースには多くの市民が拍手や声援でランナーを激励。

ランナーの皆さんも、それに応えるように、笑顔で最後まで力走してくれました。



すっかり人気者になったミナモと児童らの記念撮影「ハイ!チーズ」

この日は、市内の各所でミナモが大活躍。あさぎり体育館前では、子どもたちの人気者のミナモと、ギフとフラッグ保持者の児童らが一緒に記念撮影をしていました。

市民の皆さんで盛り上げ成功させよう！

2012ぎふ清流国体

輝けはばたけだれもが主役

2012ぎふ清流大会

リレー隊参加者の感想

温泉街の中心、下呂大橋を駆けていく最高齢ランナーの斎藤さん

（市内最高齢ランナー）

斎藤光正さん（78歳）

「40年国体では、父がランナーとして参加した。自分の年齢から考えて無理かと思ったが、国体の成功を願ってなんとか完走できました。」

金山駅前の商店街でギフとフラッグを保持しながら走り抜ける伊藤さん

（ギフとフラッグ保持者）

伊藤　翼さん（12歳）

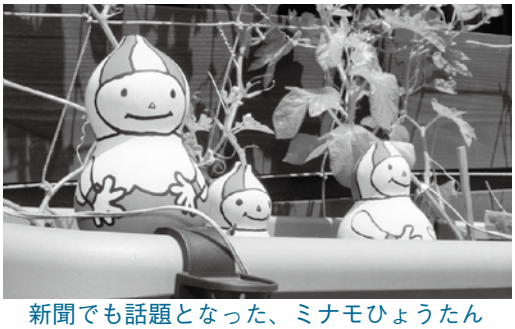
「緊張したけど、楽しく走ることができました。47年後もチャンスがあれば、走りたいです。」

市内の最終区間、下呂市役所下呂庁舎を出発する矢嶋さん

（ぎふ清流大会に出場決定）

矢嶋章浩さん（25歳）

「このような機会をもらい、一生の思い出となりました。大会では、ソフトボール投げと50m走の2種目で金メダルを目指したい。」



新聞でも話題となった、ミナモひょうたん

いよいよ、開催まであと28日となった「2012ぎふ清流国体」（9月1日現在）

市内でも、記念切手が発売され、国体歓迎の杉門やミナモひょうたんが話題になったりと、〝国体機運〟が高まってきました。

国体開催期間中は、延べ2万2000人もの関係者が当市を訪れます。

このまちを訪れる人に、「下呂市を訪れて良かった」「思い出に残る国体になった」と感じていただけるように、おもてなしの心遣いで、「ぎふ清流国体」を成功させましょう。

下呂市限定
「ぎふ清流国体記念切手」

市内郵便局にて好評販売中！
残りあとわずかです。
（限定1,000枚・1,200円）

記念シートを受け取る野村市長